

# 比較言語学入門 V

日 野 資 成

## 0. はじめに

前回は世界の言語を音韻という観点から比較した。音は、テープレコーダーで録音しない限り、すぐにその場で消えてしまう。したがって、過去の人間が話した音を研究することはむずかしく、前回は主として現代の言語を対象にして、それぞれの言語の音韻を比較し論じた。今回は言語の中でも、世界各地で古くから用いられてきた文字に着目し、その比較を試みたい。

文字は、音声と違って書くには時間がかかる。しかし、いったん書いてしまえば、後まで残るという利点がある。テープレコーダーのない時代にも、われわれの先祖は文字を発明し、それを木や石、壁、亀の甲などに刻んだりしてきた。そのおかげで、昔の人が書いた文字が現在にまで残り、研究の対象とすることができるのである。

**文字**とは何か。『日本語学辞典』によれば、「情報・思想・文化などを保存、あるいは伝達・表現するための仲介をなす特殊な記号の一つ」とある。『新しい国語学』は、「人間がことばを記録するために用いる記号であり、時空を超えて人間のことばを伝達・継承することに役立つ」と定義している。どちらにも共通するのは、保存（あるいは記録）されて現在にまで残る記号であるということである。

記号とは、ソシュールの『一般言語学講義』によれば**能記**（指すもの）と**所記**（指されるもの）からなる。たとえば、「〒」という目に見える形は能記であり、所記は「郵便番号」である。これは「〒」という記号の意味が「郵便番号」ということで、所記とは意味である。文字では、たとえば「木」という文字では、[ki]という耳で聞こえる音声か能記で、それによって指される「実際にある木」が所記である。漢字の「木」が意味を表す表意文字であ

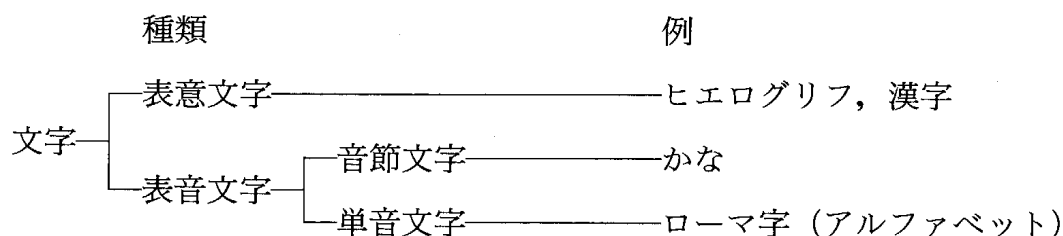
るのに対し、ひらがなの「き」は [ki] という音声だけを表す表音文字といわれる。確かに、「き」だけでは意味をなさないが、たとえば「あ」と組み合わせて「あき」になれば、「秋」をさすことになり、記号ということができる。

では、古くから存在する文字から現代の文字に至るまで、世界各地で使われてきた文字を例に挙げて記述しよう。第1節では文字の種類（表意文字と表音文字）を挙げて解説し、第2節では表意文字から表音文字に至る文字の変化を述べ、第3節では文字の書き方におけるさまざまな方向性について解説する。

## 1 文字の種類

前節の最後に述べたように、文字には、大きく分けて、意味を表す**表意文字**と音を表す**表音文字**がある。表音文字には、日本語のひらがな・カタカナのように一音節（一拍）を表す**音節文字**と、ローマ字のように単音の母音や子音を表す**単音文字**がある。

表1 文字の種類（『新しい国語学』より）



以下、表意文字、表音文字の順に、世界の文字から例を挙げ、比較してみよう。

### 1.1 表意文字

表意文字で最も原始的なものは、実際に目に見える形をまねて描いた**象形文字**である。

次の図1は、ナポレオン軍が発見したロゼッタ石に刻まれたヒエログリフという絵文字である。

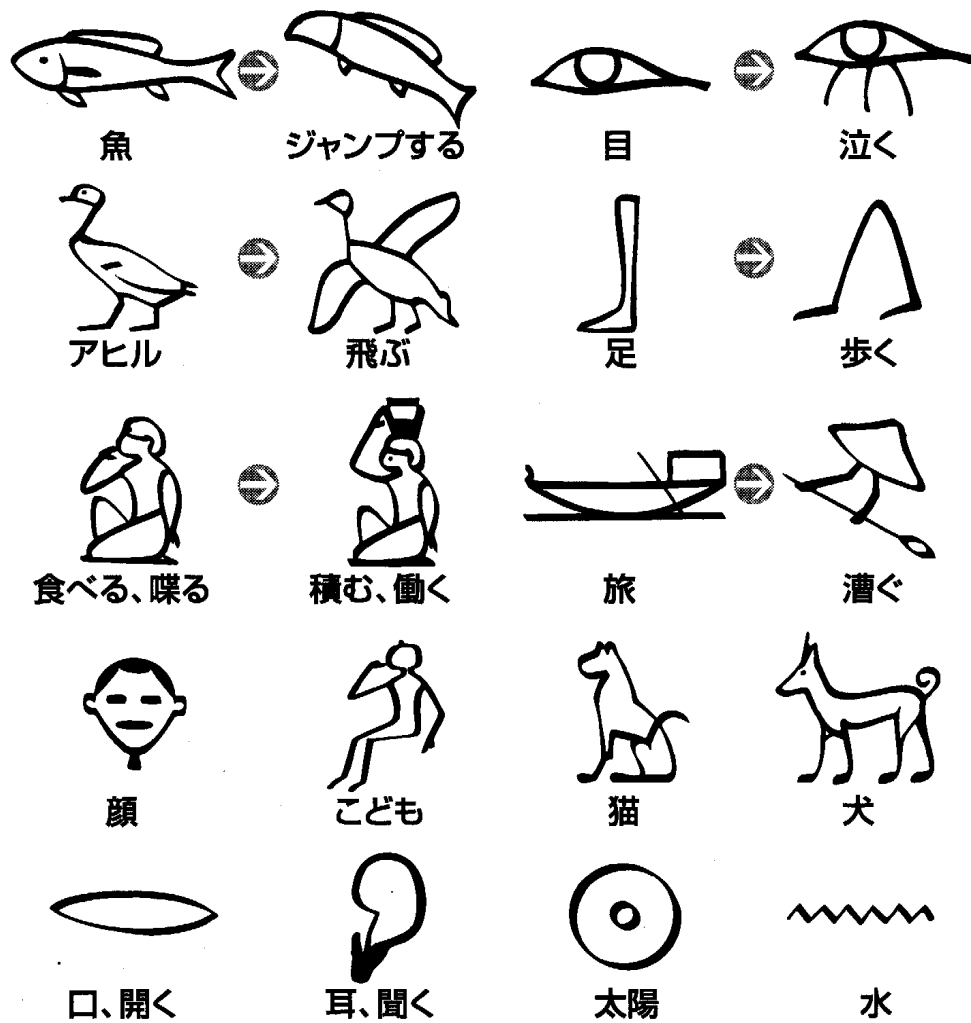


図1 ヒエログリフ (『世界のサインとマーク』より)

ヒエログリフは、紀元前2000年もの昔から使用されていたといわれている。これらは、表意文字で、図1にあるような名詞や動詞の意味を表した。

もっと古い象形文字もある。シュメール文字である。最古のシュメール文字は、都市国家ウルクの遺跡から発掘された粘土板の上に刻み込まれており、紀元前3400年頃のものと思われる。シュメール文字は、後に、古バビロニアや新アッシリアで使われた楔形文字に発展した。図2はその過程を示している。

楔形文字

シュメール語 音訳	シュメール語 意味	シュメール	古バビロニア	新アッシリア
DINGIR	神			
NAG	飲み物			
TUR	動物のおり			
DUB	平板			
IZI	火			
ANŠE	ろば			
GU <sub>4</sub>	牛			
ŠUR	怒った			
GIŠIMMAR	なつめやし			
KUR	山			
MUŠ	へび			
ŠA	心臓			
GE <sub>6</sub>	黒			
KI	大地			
KU <sub>6</sub>	魚			

図2 シュメール文字と楔形文字（『世界言語文化図鑑』より）

比較的最近の象形文字としては、ダコタ先住民の描いたものがある。図3はダコダ先住民によるもので、19世紀に起った大きな事件が記されている。



図3 ダコタ先住民による象形文字 (O'Grady et al.より)

現代の象形文字としては、図4のような種々のスポーツを表す記号がある。

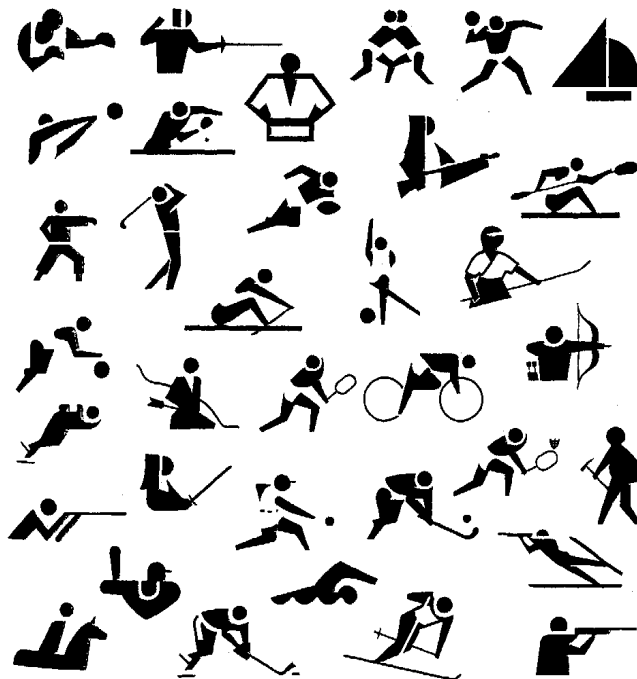


図4 現代の象形文字 (『世界のサインとマーク』より)

Eメールで使われる次のような顔文字も現代の象形文字といえる。

顔文字	意味	擬声語・擬態語
(^o^)	どうもありがとう。	ニコニコ
(^o^)	うれしいです。	ワーイ
(^o^;)	ごめんなさい。	(冷汗)タラリ
(^^)	どうしよう。困った。	ウーン

図5 Eメールで使われる顔文字の例

漢字も、意味を表す表意文字である。図6は、動物を表す漢字の形の変遷を示している。一番左は亀の甲に刻まれた甲骨文字である。

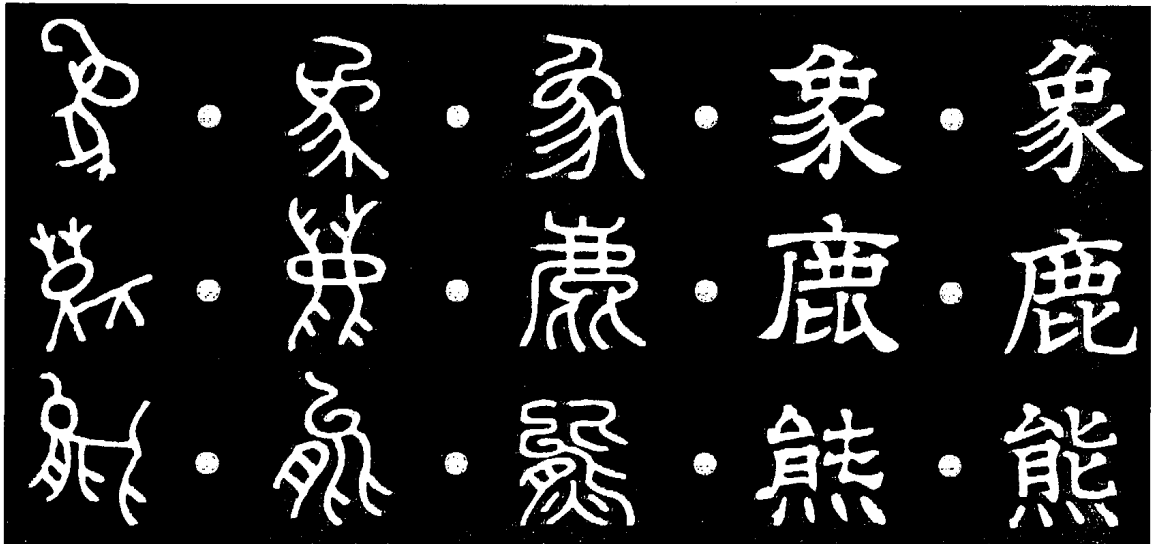


図6 動物を表す漢字の形の変遷（甲骨文字から漢字へ）  
（『世界のサインとマーク』より）

## 1. 2 表音文字

表音文字には音節文字と単音文字がある。音節文字、単音文字の順に述べる。

### 1. 2. 1 音節文字

一文字が一音節に対応する音節文字としては、まず古代ペルシャ語のペルシャ文字が挙げられる。次の図7はペルシャ音節文字である。

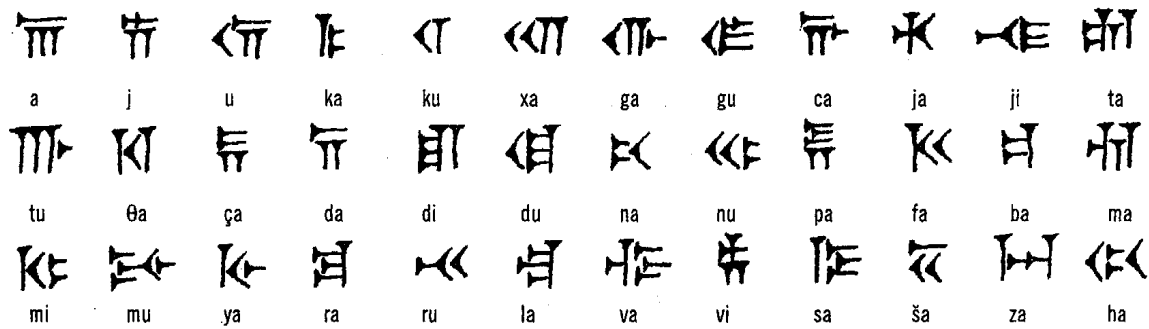


図7 ペルシャ音節文字（『世界言語文化図鑑』より）

ペルシャ文字は、ペルシャ王ダリウス一世（521—486BC）が創作を命じたとき、図7のように36の音節文字があった。

紀元前11世紀の半ば頃までに、キプロス島に移住したミケーネ系ギリシャ人たちが作ったのが、図8のキプロス文字である。

記号	音訳	記号	音訳	記号	音訳	記号	音訳	記号	音訳
✱	a	✱	e	✱	i	≡	o	Υ	u
✱	pa	⚡	pe	∇	pi	∫	po	∞	pu
ト	ta	∞	te	↑	ti	F	to	∞	tu
±	ka	✱	ke	Υ	ki	∧	ko	✱	ku
∇	sa	∞	se	±	si	≡	so	∞	su
						∫	zo		
✱	ma	✱	me	∞	mi	⊙	mo	✱	mu
∞	na	∞	ne	∞	ni	∞	no	∞	nu
∞	wa	I	we	✱	wi	∞	wo		
∞	ya					∞	yo		
∞	ra	∞	re	∞	ri	∞	ro	∞	ru
∞	la	8	le	≡	li	+	lo	⊙	lu
∞	ksa	∞	kse						

図8 キプロス文字（『世界言語文化図鑑』より）

全部で54の音節文字があった。

朝鮮王朝第4代のセジョン大王の命で1443年に制定されたハングルも母音と子音の組み合わせからなる音節文字である（図9）。

ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅚ	ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ
ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅚ	ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ
ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅚ	ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ	
ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅚ	ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ		
ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅚ	ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ			
ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅚ	ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ				
ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅚ	ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ					
ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅚ	ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ						
ㅠ	ㅡ	ㅚ	ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ							
ㅡ	ㅚ	ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ								
ㅚ	ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ									
ㅙ	ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ										
ㅛ	ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ											
ㅜ	ㅟ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ												
ㅟ	ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ																
ㅠ	ㅢ	ㅣ	ㅤ																	
ㅢ	ㅣ	ㅤ																		
ㅣ	ㅤ																			
ㅤ																				

図9 ハングル表（『スタンダードハングル講座1』より）

このように、ハングルには190の音節文字がある。

日本語の点字も母音と子音を組み合わせた音節文字である。点字はさいころの六の目のような六つの点のいくつかをふくらませ、そのふくらみを指で感じて読む。点字の成り立ちを『点字・点訳基本入門』によって解説しよう。母音は、次のように表す（太い点はふくらみを表す）。

(1) 点字の母音

⠂ [あ/a/], ⠂ [い/i/], ⠂ [う/u/], ⠂ [え/e/], ⠂ [お/o/]

子音は次のように表す。

(2) 点字の子音

⠈ /k/, ⠈ /s/, ⠈ /t/, ⠈ /n/, ⠈ /h/, ⠈ /m/, ⠈ /r/

(1)の母音と(2)の子音を組み合わせて、次のような文字ができる。



## (3) 点字の子音と母音の組み合わせ

⠠ か/ka/, ⠠ き/ki/, ⠠ く/ku/, ⠠ け/ke/, ⠠ こ/ko/  
 ⠠ さ/sa/, ⠠ し/si/, ⠠ す/su/, ⠠ せ/se/, ⠠ そ/so/

縦に見ると、同じ母音が使われているのがわかる。たとえば、「か/ka/」と「さ/sa/」では、母音/a/「⠠」が共通している。横に見ると、同じ子音が使われているのがわかる。たとえば、「さ～そ」では、子音/s/「⠠」が共通している。濁点は、(3)の記号の左に「⠠」をつけて示される。これが濁音符になる。

## (4) 点字の濁音

⠠ か/ka/ → ⠠⠠ が/ga/

「きゃ」「きゅ」「きょ」など、小さい「ゃ」を含む拗音は、(4)の記号の左に「⠠」を入れて示す。これは、ローマ字の/y/にあたる。

## (5) 点字の拗音

⠠ か/ka/ → ⠠⠠ きゃ/kya/

「きゃ/kya/」がローマ字で/k/, /y/, /a/の三文字からなるように、点字も同じ三文字の組み合わせでできている。撥音、促音、長音には別の記号があるが、ここでは省く。

## 1. 2. 2 単音文字

原カナン文字から派生したといわれるのが**フェニキア文字**である。ベツレヘムの西に位置するエルカドルという村から、フェニキア文字が刻まれた矢尻がいくつも見つかった。これらの矢尻は紀元前1100年頃のものとして推定されている。フェニキア文字は、ヘブライ語の最古の文書として知られる紀元前10世紀頃のゲゼル・カレンダーなど、ヘブライ語の最も初期の刻文に使われているので、**古代ヘブライ文字**ともいう。すべて、子音のみを表す22文字から成り立っている。

シリアのアラム人は、紀元前11世紀頃までフェニキア文字を使って、彼らの言語である西セム語（アラム語）を書いていたが、紀元前8世紀頃までには、独特の**アラム文字**を発達させていた。現代ヘブライ文字はアラム文字を起源としている。次の図10は、古代ヘブライ文字（フェニキア文字）から現

代ヘブライ文字への発展を示している。現代ヘブライ文字の方形はアラム文字の特徴である。

古代ヘブライ文字	現代ヘブライ文字	名称	音訳
𐤀	א	aleph	'
𐤁	ב	beth	b
𐤂	ג	gimel	g
𐤃	ד	daleth	d
𐤄	ה	he	h
𐤅	ו	waw	w
𐤆	ז	zayin	z
𐤇	ח	ḥeth	ḥ
𐤈	ט	ṭeth	ṭ
𐤉	י	yod	y
𐤊	כ(ך)	kaph	k
𐤋	ל	lamed	l
𐤌	מ(ם)	mem	m
𐤍	נ(ן)	nun	n
𐤎	ס	samekh	s
𐤏	ע	ayin	'
𐤐	פ(ף)	pe	p
𐤑	צ(ץ)	ṣade	ṣ
𐤒	ק	qoph	q
𐤓	ר	reš	r
𐤔	ש	šin	š/s
𐤕	ת	taw	t

図10 ヘブライ文字(『世界言語文化図鑑』より)

アラム文字から発展したといわれるのが、次のアラビア文字である。

記号				音訳
語尾	語中	語頭	独立形	
ا			ا	ā
ب	ب	ب	ب	b
ت	ت	ت	ت	t
ث	ث	ث	ث	θ
ج	ج	ج	ج	j
ح	ح	ح	ح	h
خ	خ	خ	خ	x
د			د	d
ذ			ذ	ð
ر			ر	r
ز			ز	z
س	س	س	س	s
ش	ش	ش	ش	ʃ
ص	ص	ص	ص	ʂ
ض	ض	ض	ض	d
ط	ط	ط	ط	t
ظ	ظ	ظ	ظ	ð
ع	ع	ع	ع	ʕ
غ	غ	غ	غ	ɣ
ف	ف	ف	ف	f
ق	ق	ق	ق	q
ك	ك	ك	ك	k
ل	ل	ل	ل	l
م	م	م	م	m
ن	ن	ن	ن	n
ه	ه	ه	ه	h
و			و	w
ي	ي	ي	ي	y

図11 アラビア文字(『世界言語文化図鑑』より)

現代アラビア文字は、精微な草書体で書かれる子音記号で、六文字以外はすべて語頭・語中・語尾で形を変えるほか、このような位置に左右されない独立した形も持っている。

## 2 文字の変化 —表意文字から表音文字へ—

前節の1. 2. 2で、単音文字が時代とともに少しずつ形を変えていった例を紹介した。しかし、文字の種類は単音文字のままであった。一方、世界の文字の中には、もともと表意文字であったものが簡略化されて表音文字になった例がある。まず、ヒエログリフは、図12のように簡略化されて現在の英語のアルファベットになった。

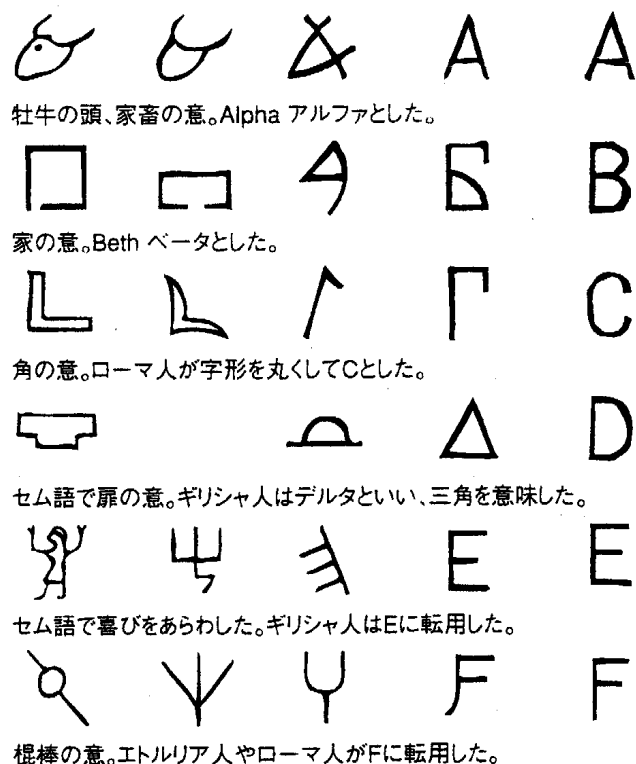


図12 ヒエログリフからアルファベットへ（『世界のサインとマーク』より）

アルファベットは単音を表す表音文字である。

日本人も、中国から来た漢字（万葉がな）を簡略化してひらがなを生み出した。図13は、万葉がな「安」「以」「宇」「衣」「於」が次第に「あ」「い」「う」「え」「お」になっていく過程を示している。

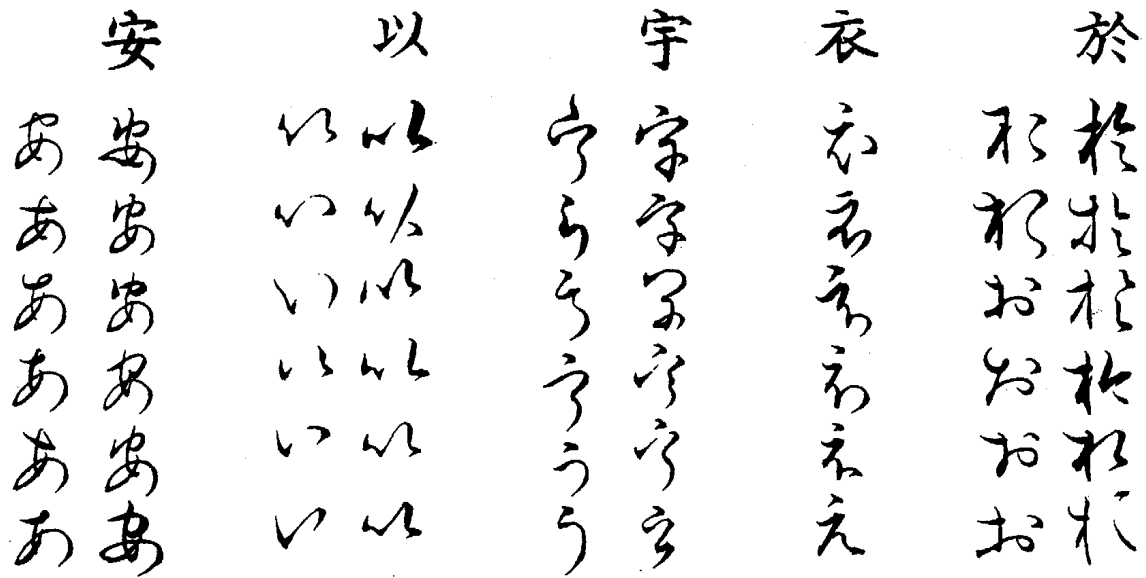


図13 ひらがなの誕生（児玉幸多『漢字くずし方字典』より）

日本人はまた、万葉がなの一部を取ってカタカナを生み出した。表1はカタカナのもとになった万葉がなを示す。

表1 カタカナのもとになった万葉がな（『国語学要説』より）

ア	阿	イ	伊	ウ	宇	エ	江	オ	於
カ	加	キ	幾	ク	久	ケ	介	コ	己
サ	散	シ	之	ス	須	セ	世	ソ	曾
タ	多	チ	千	ツ	川	テ	天	ト	止
ナ	奈	ニ	二	ヌ	奴	ネ	禰	ノ	乃
ハ	八	ヒ	比	フ	不	ヘ	部	ホ	保
マ	万	ミ	三	ム	牟	メ	女	モ	毛
ヤ	也	イ	伊	ユ	由	エ	江	ヨ	与
ラ	良	リ	利	ル	流	レ	礼	ロ	呂
ワ	和	キ	井			エ	恵	ヲ	乎

たとえば、アは「阿」の「こぎとへん」から、イは「伊」の「にんべん」から、ウは「宇」の「うかんむり」から、エは「江」の旁から、オも「於」の旁から来ている。「ン」は撥音符号「V」から来ている。

### 3 文字の方向性

文字が書かれる方向性は次の4種類である。

#### (6) 文字の方向性

- ①右から左へ
- ②左から右へ
- ③上から下へ
- ④下から上へ

文字の方向性は同じ言語でも時代によって変わる場合もある。たとえば、日本語は、古くから縦書きであったが、現在はパソコン上や携帯電話の文字盤上に横に書くことから、急速に横書きが普及している。また、同じ横書きでも、戦前は右から左だったのが、戦後は左から右に変わった。

文字の方向性は単なる読みやすさの問題ではなく、書く人の思想にかかわるといえる。石川(2003)は、「一般論として、縦書きの場合には、『歴史や社会とともにある自分』という形の文体が多く、一方、横書きでは、私は私といった『私』を中心にした文章になる例が多い」と指摘し、それを「天からの重力を受け止め、その重さをたえず感受しながら、それに乗ったり、あるいはそれをもち応えながら書き進んでいく縦書きの文章と、天からの重力を無視して突っ走り、ひたすら走り抜けるように書いていけばいい横書きの違いを意味しています。その違いが、文体の違い、文の違いを生んでいます」と説明している。

『世界言語文化図鑑』により、世界の文字を見てみよう。初期のシュメール文字は、粘土板上に右から左に書かれていた。紀元前2000年の初めまでにはシュメール人の書家たちは左から右へと横書きに書くようになった。エジプトのヒエログリフ表記の通常の方法は、総じて右から左であったが、逆の方法も存在した。原カナン文字の書く方向はさまざまで、上から下、右から左、左から右、さらには行が変わるたびに右左の方法を変えるブストロフェドン方式で書かれることもあった。ブストロフェドン方式はいわゆる犁耕式書法で、牛で畑を耕すときの歩き方にちなみ、右から左へ、左から右へ、右から左へと方法を交互に変えて書く方法である。原カナン文字から派生し

たフェニキア文字とアラム文字の多くは水平方向に右から左へと書かれる。ギリシャのキプロス音節文字はそのほとんどが右から左へと書くが、左から右に書くものもあり、またブストロフェドン方式で書くものもある。初期のギリシャ・アルファベット表記にも三つの様式すべてがみられる。その中で、左から右への方向が優位にあり、その後発生したエトルリア、ラテン、コプト、キリルなどの表記体系に引き継がれている。中国語は上から下に書き、右から左へと欄を進める。モンゴル表記も上から下へと書くが、左から右へと欄を進める。バタック文字は縦書きであるが、下から上へと書き、左から右へと欄を進める。

#### 4 おわりに

以上、昔から現在に至るまでの世界のさまざまな文字を取り上げて比較してきた。文字とはわれわれ人間の先祖の知恵が生み出した産物であり、記録され、保存されてきたおかげで、現在われわれが研究材料としても使える。また、文字を使って自己を表現することもできるし、書物という形で後世の人に思いを伝えていくこともできるのである。日本語の場合、万葉がなという漢字から、ひらがなやカタカナが生まれた。おかげでわれわれは、漢字、ひらがな、カタカナの3種類の文字を使い分けて表現することができる。

世界の文字においても、ヒエログリフが簡略化されてアルファベットが生まれた。今日アルファベットは世界の各地で使われている。人類の英知に感謝しつつ、文字を大切に使用したい。

## 参考文献

- 『新しい国語学』佐田智明その他 1988年 朝倉書店
- 『一般言語学講義』フェルディナンド・ド・ソシュール 小林英夫訳 1940年 岩波書店
- 『漢字くずし方字典』児玉幸多 1982年 近藤出版社
- 『新版国語学要説』佐藤喜代治編 1973年 朝倉書店
- 『スタンダードハングル講座1』梅田博之 金東俊 1989年 大修館書店
- 『世界言語文化図鑑』バーナード・コムリー, スティーヴン・マシューズ, マリア・ポリン  
スキー編 片田 房訳 1999年 東洋書林
- 『世界のサインとマーク』村越愛策監修 2002年 世界文化社
- 『点字・点訳基本入門』当山 啓 1998年 産学社
- 『日本語学辞典』杉本つとむ 岩淵 匡 編著 1990年 桜楓社
- 『日本語を問いなおす』石川九楊 NHK 人間講座 2003年12月～2004年1月
- Contemporary Linguistics (third edition). 1997. O'Grady, William, Michael, Dobrovolsky, Mark, Aronoff eds. St. Martins. Chapter 15 Writing and Language:2.2 Pictograms.